



高齢者の方がたが「行きたい!」と思える 開かれた施設づくり



「しらとりハイアンデイ」の多目的ホール。
2階には周りを囲むようにさまざまな「学び」や「娯楽」が用意されている。



「特別養護老人ホームしらとり」のエントランス。



ゆったりした、3時のお茶の時間。

茨城県筑西市にある「征峯会」は、特別養護老人ホーム、デイサービスの運営を軸にしつつも、高齢者にとどまらず地域の幅広い層に大きな「楽しみ」を与えるかけがえのない存在となっている。その地域に開かれた施設づくりで、地域の中心的存在としての活動の内容を紹介する。

利用者が 楽しく過ごせる 福祉施設

征峯会のある筑西市は、2005年に1市3町が合併してできたが、栃木県との境に位置する人口10万人強の県西の中核都市である。

征峯会の運営する「特別養護老人ホームしらとり」と「しらとりハイアンデイ」のある上平塚地域までは、最寄りの水戸線川島駅、玉戸駅からそれぞれ車で10分。街並みを抜け、広々とした田園地帯が広がるなか、街道沿いにヤシの木で囲まれ、緑があざやかな芝生の前庭をもつ、リゾートホテルを思わせるような明るい外壁の建物が目に入る。

30年前の昭和62年、同じ地域内で障害者施設の設定からはじまった征峯会の事業は現在、特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイと時の変遷とともにひろがってきたが、その活動の大きな特徴の一つは、利用者が行きたいと思う施設とするためのさまざまな工夫である。

たとえば「特別養護老人ホーム

しらとり」に隣接した土地に平成26年に竣工した「しらとりハイアンデイ」で行われている事業もその一つ。ここではデイサービス、ショートステイの事業が行われているが、その内容は実にユニークなものだ。

デイサービス利用者の送迎車が出発するのが朝の8時。9時15分頃に施設に到着した利用者はまず健康チェックを受け、その日の活動プログラムを自分で選択するのだが、そのプログラム内容は実に多彩である。

施設に入ると、テニスコート三面分はありそうな大きな多目的ホールが広がり、常設ステージと喫茶スペース、広々としたテーブルが配置され、利用者が自由に過ごす空間ができていく。

2階には、吹き抜けになったその広いホールを囲むように、「プール」「レッドコード（身体の可動域を広げるリハビリ）」「平行棒」や「浴場」などのリハビリ設備が揃っている。そのほかにもさまざまな部屋が用意され、「カラオケ」「映画」「スロットゲーム」「マージャン」「卓球」なども常設。

さらには、「大正琴」「折り紙教室」「料理教室」「写経」「ゲーム」

「元気体操」「塗り絵」など目ごとさまざまなプログラムが用意されている。これらは多くのボランティアの方がたの協力もあり、行われている。こうしたバラエティに富んだプログラムがびっしり書き込まれた、カラフルな月の予定表が利用者に配布され、利用者は各自やりたいことを自由に選んで、一日を、学び、身体を動かしながら本当に楽しく過ごすことができる。



娯楽室には「スロット」や「マージャン台」も用意されている。

そして、リハビリを行うと、施設内専用通貨である「ペリー」を貯めることができ、1階の喫茶ス

ペースでコーヒーや茶菓子を購入することができる。ただリハビリをするだけでなく、目に見える成果を示してあげたいという施設長の思いからできた通貨制度である。

外の光を多く取り入れる施設づくり、そして多くの方がさまざまなプログラムに楽しそうに取り組む様子、それらが相まってまさにリゾートを思わせる空間ができあがっている。

開かれた 施設づくり

「この施設を作るにあたっては、これまで家族のため、地域のため、国のために頑張ってきた人がゆったりと過ごせる場所にしたいたい」と思っていました。そのため初代理事長とともに、全国各地のさまざまな施設を見て歩きました。たぶん50か所くらいになると思いますが、そんななかで「素晴らしい!」と感じた施設の特徴を設計の方に伝えるながら、南国のリゾートのような施設に至りました。

理事長の渡辺和成さんは、この利用者家族や地域に開かれた施設



沿革と現状

征峯会

【法人の概要】

- 法人名
社会福祉法人 征峯会
- 本部住所
〒308-0067
茨城県筑西市上平塚590-1
- 事業内容
・特別養護老人ホームしらとり
・しらとりハワイアンデイ（デイサービス・ショートステイ）
・ピアしらとり（指定障害者支援施設）
・パン工房しらとり・CAFEラパン
ほか



理事長 渡辺 和成



特別養護老人ホームしらとり



今年で56回目の
地域のゴルフコンペ

ができるまでに至った背景をこのように説明してくれた。
利用者が心から「行きたい」と思うデイサービスへ。法人のその思いが実現しているかどうかは、利用者の表情を見れば素直に伝わってくる。「しらとりハワイアンデイ」が本来の名称だが、利用者の多くが「ハワイアンセンタール」に行ってくる！と嬉しそうに出かけてくるという。このデイサービスの現在の契約者は約360人。一日100人以上の方がこの場所に訪れている。

住民の皆さんに、施設のことを知っていただきたい。この思いから征峯会ではさまざまな活動を行っているが、なかでも古くから続いているのがゴルフコンペの開催である。もともと茨城はゴルフがとても盛んな地域。そこでゴルフコンペを法人が企画し、プレイ終了後のパーティーを施設で行うことで、多くの住民の方が自然に施設を訪れ、施設を知ってもらう機会となっている。年に2回

10,000人の
住人が集まる
「しらとりまつり」

開催されるゴルフコンペは始めてからすでに20年を超え、今年で56回目を迎えた。地域の方がたに幅広く声をかけ、参加者は2000人を超えることもあるという。
このイベントはもう一つの効果を生むことにもなった。征峯会では、障害者施設の入所者の就労支援事業の一環としてパン工房を経営しているが、ここで作られたパンをパーティーの際に提供したところ、評判となり、さまざまなイベントやほかのゴルフコンペのパーティーでも提供されるようになったという。

毎年11月の第2土、日に開催される「しらとりまつり」も、征峯会が住民の方がたの集いの場として毎年開催している大きなお祭りだ。
施設の前庭やホールを開放し、職員による出店、さまざまなゲストも呼んで開かれる盛大なお祭り、来場者は2日間で毎年約10,000人。施設のある五所

「征峯会」の沿革
家庭的であたたかい施設を

征峯会は今から30年前の昭和62年、障害者施設「しらとり更生園（現在のピアしらとり）」の開設から始まった。もともと地元参議院議員の秘書を務めていた初代理事長の渡辺征男氏が、議員とともに県内のさまざまな障害者施設を回る機会を得て、その現状、また県内の施設が大変に不足している事実を知り、自ら障害者施設を設立したのが始まりである。

征峯会には、設立の際からの一環した考えとして「家庭的であたたかい施設を作りたい」という思いがある。福祉の経験がなかった渡辺征男氏は、県内はもとより全国の評判となつていく多数の施設を見て歩くことから始めたという。

自宅の土地の一部を寄付して最初の施設「しらとり更生園」を建立。その後、平成17年に「特養老人ホームしらとり」を開設する。その背景を理事長の渡辺和成氏は次のように語る。

「それまで障害者施設だけをやっ



近所の農家のご協力により、イチゴ狩りを楽しむ。

てきた子どもが特別養護老人ホームをやるようになったきっかけの一つは、入所者のご家族の言葉でした。それは「自分たちがいなくなった後、子どもが心配だ。なんとか老人ホームをもってもらえないか」という言葉でした。そのような意見を受け、市で運営している特養の民間譲渡の話に手を挙げ、私たちがやらせていただくことになりました。初めて特養をやらせていただく私たちにとって一番ありがたかったのは、その特養に以前から務めているスタッフの方がたに残っていただけなことでした。



毎年10,000人の方が来る「しらとりまつり」。ステージも大盛況。



手作りの「ねぶた」で地元の祭りにも参加する。

地区の人口が約3,000人であることから、いかに地域全体を巻き込んだイベントであるかがわかる。
お祭りの会場では来場者の方がたに催しに関するアンケートなども行い、これを参考に職員が半年ほど前から次回の準備を進めている。近年は地元の幼稚園や小学校の子どもたちのさまざまな活動の発表イベントを積極的に取り入れることで、家族連れで来場される方も増え、全世代が楽しめる一年一度の地域最大のイベントともなっている。

また征峯会では設立当初から、地域のイベントへの参加にも積極的だ。球技大会や五所音頭大会、地区合同運動会など地域への参加は年間の恒例行事。地域の祭りには手作りのねぶたで参加し目玉となっている。また住民との共同での清掃活動、地域住民のイベントへの施設スペースの貸し出しや、「ふれあい太鼓教室」「ふれあい剣道教室」を開き、地域の小学生との交流も行ってきた。障害者施設「ピアしらとり」で平成9年より音楽活動の一環として取り組んできた和太鼓は、近隣の祭りやイベントで年間30回ほど公演するほどで、大きな評判となっている。



特集

制度改革を好機として、存在意義を発信する

第35回全国社会福祉法人経営者大会

社会福祉法人は社会福祉事業の主たる担い手として、民間ならではの経営の自主性・自律性を発揮し、地域ニーズに柔軟に対応し、制度の狭間にも積極的に対応することで社会からの期待に応えてきた。

今般の社会福祉法人制度改革や「一億総活躍」社会の実現に向けた諸施策は、改めて社会福祉法人が公益法人としての役割を発揮し、社会福祉の主たる担い手としての存在意義を社会に示し、信頼と支持を得る好機である。

そこで、経営協に加入するすべての会員法人が、社会福祉法人こそが、今後もわが国の社会福祉の主たる担い手であるということを一歩確認し、実践をもって発信することをめざし、全国から約1,200名の参加を得て、平成28年9月14日(水)～15日(木)に熊本県熊本市において第35回全国社会福祉法人経営者大会を開催した。本号では全国大会の概要を報告する。

た。ただ施設は6人部屋の多床室で、建物も古いものでしたので、家族の方がなかなか面会に来ないといったこともありました。もっと良い環境にしたい。頑張っただけで暮らした方がたに、素晴らしい環境で暮らしていただきたい。これが当時の私たちの思いでした」

「ここで暮らしたい」と思える施設に生活習慣や好みまで細かく把握したケアを

こうした思いのもと、現在の地にユニット型の新施設「特別養護老人ホームしらとり」が平成21年に完成。続く平成26年には「しらとりハワイアンデー」を開設することになる。

この二つの施設の大きな特徴は、冒頭でも触れたリゾートホテルを思わせるような、その空間づくりにある。

たとえば「特別養護老人ホームしらとり」の広いエントランスに一歩足を踏み入ると、そこはまさに別世界。高い天井の空間に、大きな窓から明るい光が届く。天井からカラ



職員は全員アロハシャツを着用。

フルな花が下がり多数の観葉植物も配されている。真ん中にはゆったりとした明るい色のソファが置かれ、さらに働いている職員は全員アロハシャツ着用。その彩りを目にしただけで、心が弾むような空間ができていく。この施設になってから、面会の方がとても増えました。また見学に来られた高齢者の方やご家族の方も、ここならいい、とおっしゃってくれます。なにより働いている私たち自身が気分がいいですね」と渡辺氏。

ト型施設のため、入浴や食事、就寝などの時間も自由で、各自が自分のペースで過ごすことができる。ユニットごとに専任の担当者がつくと、それぞれの方の生活習慣や好みまでも細かく把握したケアが行われている。

職員の視野を広げるために海外研修によってさまざまなアイデアを得る

当法人では、新しく入った職員を対象に毎年、サイパンやベトナムなどの海外研修を行っている。これは初代理事長の「介護だけの仕事をしていると視野が狭くなる。広い世界を見て視野を広げてほしい」との思いから来ているもので、新人のみでなく職員全体が3年に一度同様に海外研修に出かけている。

施設の雰囲気づくり、さまざまなイベントや利用者に対するサービスのアイデアも、この海外研修のさまざまな経験で得られたものも多いという。



職員の視野を広げるための海外研修。



第35回全国社会福祉法人経営者大会

「制度改革を好機として、存在意義を発信する」

主催：全国社会福祉協議会・全国社会福祉法人経営者協議会・熊本県社会福祉協議会・熊本県社会福祉法人経営者協議会・公益財団法人熊本県社会福祉協議会

基調報告
「社会福祉法人をめぐる動向と全国経営協の取り組み」
全国社会福祉協議会 公益財団法人 彰 彰 彰

特別講演
「激動する国際社会で生存を考えるとということ」
公益財団法人アジア・アフリカ地域センター 特別講師 小川 和久氏

